

歴史ある花火大会を守れ！単なる提携やシステム導入で終わらない駐車場シェアサービス

取組主体：軒先株式会社、茨城県境町（境町観光協会）

茨城県境町で開催される「利根川花火大花火大会」は、著名な花火師の競演による打上数30,000発の全国でも有数の大規模花火大会です。来場者数は毎年20万人以上にもなることから、大会当日は町内に不正駐車をはじめとする渋滞などの交通諸課題が発生。土地勘の無い来場者が駐車場を探す事で、町内の道路が麻痺してしまい主要道路まで渋滞が広がってしまっていた。打開策として単なる提携やシステム導入で終わらない軒先独自の駐車場シェアサービスの取り組みを実施した。

課題 や現状

- 地域特性として最寄駅までの公共交通手段が少なく、また町内に来場者を収容できる程の大規模駐車場を設けるスペースがない。
- そもそも駐車場数が不足していたため、当日は駐車場確保のための車が早朝から町内に殺到していた。
- 今後は2024年問題によりバスの運行数が減ると来場手段が少なくなり一層の混乱が生じる可能性もあり。
- 不正駐車や渋滞による町内混乱で地元住民の中には開催に消極的な意見もあり。
- 運営面では慢性的な人材不足が発生し運営スタッフの負担も大きな課題。
- 駐車場を無料開放していたため、観覧チケット不保持者による駐車場利用でチケット保有者の駐車場がない事態が発生。
- 2022年の大会では町内混乱によりシャトルバスが大会開催時刻までに会場に到着できない事態が発生。

解決策や アイデア

- 町民に協力依頼し軒先パーキングのインターネット事前予約制・有料制のシェア駐車場を活用。町内に少台数でも多拠点の駐車場を増やすことで駐車場数を確保することでシャトルバスの運行拠点数と本数を減らしコスト軽減を図る。
- 駐車場の貸出しに協力してくれた町内には駐車場の利用料をお支払いすることで町民にも還元。
- 観覧チケット保有者には駐車場の優先予約を実施。
- 駐車場の運営計画と管理を軒先が請負い、公式駐車場の運用マニュアル作成やスタッフ手配なども協力。
- 発生する費用は有料化した駐車場の料金から捻出することで主催者の経済負担が新たに発生しないよう考慮。
- 高齢者やインターネットが苦手なオーナーも貸出しができるよう申込みフローをインターネット以外でも受付。

取組状況 や成果

- 町内に公式の無料駐車場を一切なくし、公式駐車場27ヶ所2,829台分を予約制とすることで渋滞緩和に寄与。
- 民間から130ヶ所1,464台分の駐車場提供があり駐車場不足の解消と渋滞緩和に大きく貢献した。
- シャトルバスの運行を減らすことができたためコスト減に成功。
- 観覧チケット保有者から駐車場確保できないことのクレームがほぼ解消。
- スタッフの実務負担が大幅に軽減され、運営収支も大幅に改善された
- 高齢者やインターネットが苦手なオーナーからの貸出希望も多数あり、貸出しの75%以上がアナログな申込みだった。

駐車場不足・渋滞緩和のための対策

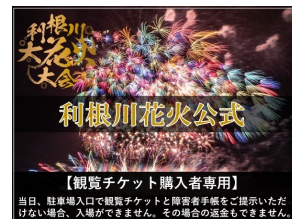
ポイント 軒先パーキングの導入し、駐車場を予約制・有料制にする

駐車場不足から端を発する交通諸課題は非常に大きい。特に無料駐車場が多くあることで、花火大会当日は駐車場確保のための車両が早朝から町内に押し寄せることで、図のような交通諸課題の負のサイクルが連鎖的に発生する。交通インフラが整っていない地域ほどこの影響を多大に受ける。

<軒先パーキング導入のメリット>

軒先パーキングを導入することで、上記の問題がかなり緩和する。特に利根川大花火大会においては各課題の大幅な改善をするために下記のような取組みを実施した。

- ・ 町内に無料駐車場をなくし、公式駐車場27拠点2,829台分全てに軒先パーキングの予約制を導入
⇒来場者に駐車場を確保することで早朝来場、駐車場確保のための開門待ちの車両を減らし渋滞を緩和した。
- ・ 民間からの駐車場提供（軒先パーキング活用）を呼びかけ、少台数でも多拠点の駐車場を町内に設ける。
⇒民間から130ヶ所1,464台分の駐車場を確保し駐車場不足を解消。シャトルバスの運行本数減（コスト削減）。
- ・ 軒先パーキングのシステムを活用し観覧チケット保有者への優先予約を実施
⇒チケット保有者のメリット大、スタッフのクレーム対応による精神的負担の軽減。
- ・ 運営コストの軽減
⇒有料化することで利用料の一部を主催者や民間オーナーに還元。収入を運営コストに充当。



観覧チケット保有者専用の予約画面

町内全体で157ヶ所4,293台分を予約制として提供し、交通諸課題の緩和に貢献

コスト削減とスタッフ負担軽減の対策

ポイント 駐車場の運営計画と管理を軒先が請け負う

利根川大花火大会の場合、公式駐車場だけでも27ヶ所の拠点が存在する。これまでは無料で来場順に入庫させていたが予約制にすることで正確な台数のカウントが必要となる。また当日の運営計画の策定や関係各所との調整、および運営スタッフの負担を考慮し駐車場の運営業務の一部を軒先で請け負った。

<運営計画と管理>

軒先は、施設責任者に貸出協力に対するお礼とご挨拶にお伺いし、全ての公式駐車場の現地調査を事前に行った。調査結果に基づき、各々拠点に駐車できる車の台数、駐車場所、誘導方法、必要スタッフ数などについてマニュアルを作成し関係者に共有した。

<スタッフ手配と当日の運営業務>

軒先は、スタッフの手配にも協力するとともに、一部の駐車場の運営自体を軒先で対応した。



作成したマニュアルに沿って現地運営と設営の様子。必要な場合は、駐車場間違いなどによるトラブル防止などの対策も行い、学校などの公共施設や大規模駐車場の設営や運営も行った。

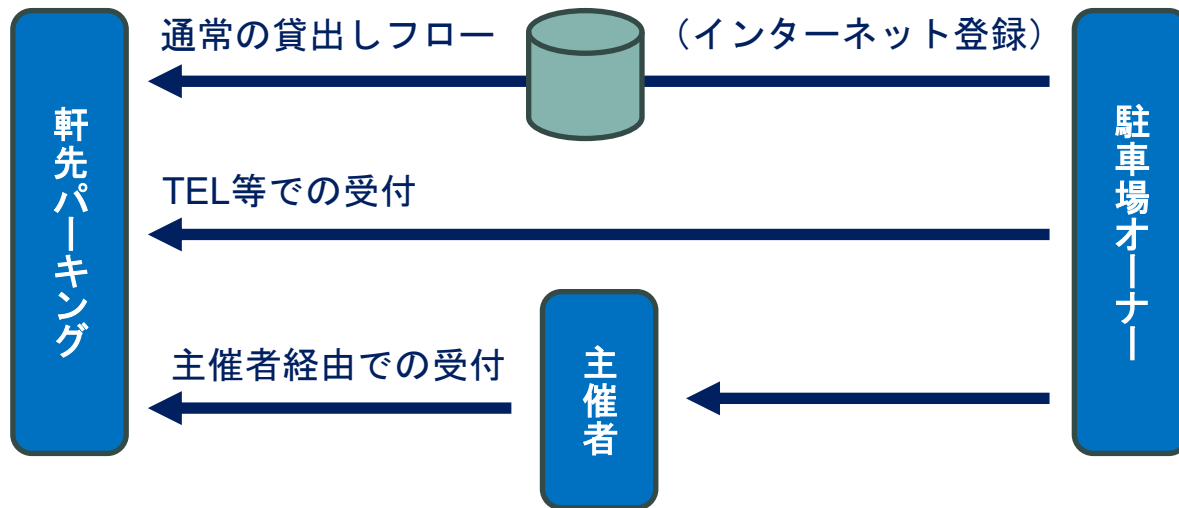


軒先が作成した2023年度の運営マニュアル。内容は多岐に渡る。

民間から多くの駐車場をみつめるための工夫と対策

ポイント 高齢者やインターネットの苦手なオーナーでも貸出しができるような対応

軒先パーキングはインターネットを利用したサービスのため、利用する側はもちろん貸す側もインターネット上での会員登録と貸出登録が必要です。IoTを活用した便利なサービスである一方で、インターネットが苦手なオーナーが一定数いることも事実である。敷地の所有者は比較的年齢層が高い方も多く、インターネット利用に対する苦手意識から貸出しを諦めるケースがあるため、そのような方々でも安心して駐車場を提供していただけるよう電話などによる受付にも対応し、軽自動車1台からでも貸出しができるよう台数確保に努めた。



民間から130ヶ所1,464台分の駐車場を確保。うち主催者経由は102件(78.5%)。

持続可能な取り組みとするためのポイント

- 民間の協力を仰ぎ、官民連携して課題（駐車場不足等の交通諸課題）解決に取り組むこと。
- 大会運営のための経済的負担とスタッフの精神的負担の軽減に努めること。
- 年齢や環境などによるデジタルディバイドをなくすための配慮と工夫をすること。
- 町おこし、観光客誘致の観点から来場者が「また来たい!」と思ってもらえるような環境を町全体で整えること。
- 主催者視点に立ち、花火大会を持続可能なものにするためにシェアを最大限活用した柔軟な取り組みに挑戦すること。

付記（任意）

軒先パーキングは、利根川大花火大会の他のエリアでも多数の取り組み実績がございます。年々お取り組みする自治体や公共団体は増えており、今春までで10エリアの花火大会やお祭りで軒先パーキングを導入いただきました。

しかしながら、新型コロナウイルスの影響や円高等による情勢悪化も相まって、花火大会をはじめとした多くのイベントの開催自体が危ぶまれているとお聞きする機会が増えております。

私たちの取り組みが、日本の伝統文化のひとつでもある花火大会やお祭りの「栄統」に寄与し、地元の皆様や子供たちの未来と地域の発展に繋がると信じて活動を続けております。

今年も会場で皆様の笑顔に出会えることをスタッフ一同、楽しみにしております。

【自治体や公共団体などが運営する花火大会での導入実績】



長岡花火

大曲の花火

神明の花火



上記の他に、喜多方さくらまつり（福島県喜多方市）、島原温泉ガマダス花火（長崎県島原市）、モエレ沼芸術花火（北海道札幌市）でのお取り組み実績がございます。